

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第二次提案書

注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。

注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1~3号様式)、一次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	つみれプロジェクト実行委員会
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	鶴見区 鶴見中央四丁目
提案名 (25字以内)	鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり まちのリビング
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容※1を工夫した点※2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	京急鶴見駅前の鶴見銀座商店街そばに新築する5階建てのビル2階(64㎡)に、人々が集い、地域の人たちと共に創りあげる拠点(まるで自分の家に招くような安心感のある)「まちのリビング」を整備する。空間の使い方については、100人を超える鶴見に住む人々からアイデアを集めた。(下記の下線部を助成金で整備) ■「食」をきっかけにした交流を支えるキッチン ・ <u>カウンターキッチン・厨房設備(ガスコンロ、二層/一層シンク、業務用換気扇、業務用冷凍冷蔵庫、製氷機、コールドテーブル)</u> ■多世代にやさしく、用途に応じ可変性のあるスペース ・乳幼児連れも安心の <small>小上がり</small> 、授乳昼寝籠りスペース ・車いすでも利用できるトイレ、手洗い場、おむつ交換台 ・ワークショップ用テーブル ・リラックスして座れる <small>ソファ</small> ■職住近接を実現するみんなのオフィス ・郵便受け・個人情報が保管できる <small>鍵付きロッカー</small> ■情報コーナー ・一部壁面および収納を掲示板、展示スペースとして活用 ■全体の整備 ・冷暖房、 <u>防犯、照明設備、内装木質化、看板</u> など店頭設備
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第一次提案書より具体的に記入してください	同ビル1階に開園予定の保育園・3階に入居予定のNPO法人ABCジャパン(外国籍の方々をサポートするNPO)等と連携し、「食」をきっかけにした多文化・多世代の住民の出会いとつながりづくりを促進する。 ■親子カフェ：子育て中の親が周りに気兼ねなく食事や相談ができる空間。1階の保育園の保育士にも相談ができ、子育て講座を受けることができる。 ■おなかま食堂：多文化・多世代の地域の人たちで普段の食卓を囲む。ひとり暮らしの高齢者や両親共働きの子ども、保育園帰りの親子もまちの家族として参加。 ■こどもリビング：「おかえり」が聞こえる、家に帰ってくる感覚で来られる居場所。 ■シニアキッチン：高齢者の健康増進、食のサロン、総合事業通所型サービスB ■地元留学：3階入居のABCジャパンと連携し、鶴見在住の外国人や留学生たちと、言語・食など多文化に触れることを通じ日常的に理解を深める機会をつくる。 ■情報発信機能：拠点のタイムスケジュールや、拠点で生まれるサークルやコミュニティ等の情報掲示板。制作物の展示。行政ほか地域情報を発信する。 ■みんなのオフィス：住所登録のできるコワーキングスペース。 ■スペース貸し：地域のサークル、勉強会等への貸し出し(自主事業含む)

<p><b>提案の背景</b>  (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)  ※第一次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>かねてより感じていた「<u>多文化・多世代の出会いと集いの場がない</u>」という地域課題が、地域住民との対話・ヒアリング、「おなかま食堂」の実施やアンケート調査からもはっきりとした。拠点を作ることで、地域住民同士が関心を持ち合える出会いとつながりづくりを促し、鶴見中央ならではの地域参加の仕組みとして機能していきたい。</p> <p>■<b>子育て世代</b>：人の目が気になって外出を控えてしまう、という声が多い。「子どもが泣いても大丈夫」と安心できる空間が近場に求められる。新築マンションが次々と建ち若い世代の転入が増えているが、新旧住民のつながりは希薄。地域とつながりたいものの「子育ての情報や自分たちの町に関する情報が全く入ってこない」という意見も多い。気軽に相談できる場所、必要な情報が集まる・届く仕組みが必要。一方で自治会町内会は、若い世代との接点の乏しさを課題としている。また、子どもたちの近くで働きたい、テレワークの拠点として使える場所がほしいというニーズがある。地元の人とつながり、働く姿を子どもたちに見てもらえることができるという価値を提供したい。そしてパパサークルからは「働く世代の地域活動を支える場がない」という声も寄せられた。</p> <p>■<b>こども</b>：鶴見中央には地区センターがなく、子どもが気軽に行ける場所がない。アンケート調査でも「こどもたちの居場所」を求める回答が最も多い。共働き家庭の子どもは、家に帰っても「おかえり」と言ってくれる人がいない。家に帰ってくる感覚で来ることができ、宿題含め自分のことを見てくれる居場所が地域の中に必要。</p> <p>■<b>高齢世代</b>：地元への愛着を持つ人たちが多く、高齢化は進み一人暮らし世帯も増えている。距離的にケアプラザへのアクセスが負担となる人も多く、孤立を防ぎ拠り所となる場所が求められている。一方、自分の特技で地域貢献したいという方々もいる。</p> <p>■<b>外国人</b>：鶴見は身近に多様な国の文化が溢れているという魅力があるが、外国籍児童の多い小学校を避け区内で転居する新住民がいるなど、日常レベルでの相互理解に乏しい状況がある。お互いに同じ地域に暮らす事の豊かさを感じられる機会が必要。拠点事業や商店街のイベント等への協力を通じ、多文化な町の魅力を発信することもできる。</p> <p>■<b>多文化・多世代の交流</b>：「子どもと母だけの平日の晩ご飯が辛い」「毎日、職場・保育園・自宅の往復で地域に知り合いが居ない」という共働き・子育て世代、「1人分の食事の準備は大変」という高齢世代の声から、地域の人たちで食卓を囲む機会の必要性を感じた。イベントではなく地域の文化となるよう実践していきたい。</p>
<p><b>整備プロセス</b>  (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>新築ビル建設に伴い、物件管理者様にトイレ等の水道関連工事・ガス空調工事をはじめとした費用をご負担いただき、約500万円を削減。据え付け以外の備品、什器はDIYに長けたHandiHouse projectのアドバイスのもと、ワークショップ形式で近隣小学校の子どもや大人たち、拠点づくりに賛同をしてくれる人たちと共に創り上げる。特に子どもたちには、「放課後イノベーション」という形で、壁塗りや床貼りを担ってもらい「自分たちの手で作る場」の経験を共有する。購入するよりも一緒に作ることで、コストも抑えていく。木質化の木材や備品、什器の木材については、可能な限りビルを建築する建設会社や地元企業、地元材木店に提供をお願いする。</p> <p>2019年2月：近隣小学校に説明 2019年4月～：契約・備品、什器づくりワークショップ  2020年1月：着工・放課後イノベーション 2020年2月末：竣工・施設の確認検査</p>
<p><b>維持管理・運営計画及びその実施方法</b>  (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福德・須田・門がシフトで常駐し、コミュニケーションマネージャーとして空間シェアや活動のコーディネート、カフェ運営を担う。地域ボランティアも含めたシフトを検討。</li> <li>・利用者のプロフィール(得意なこと、要望など)、ニーズ&amp;スキル掲示板、拠点利用カレンダー等も活用し、ヒト・コトをつなぎ、地域参加のきっかけづくり行う。既に地域住民からは、外国料理・手芸・語学など、多様な特技の申告がある。</li> <li>・定期的な会員会議等で拠点の運営状況の報告を行い、意見・アイデアや協力者を募る。</li> <li>・1階の保育園の先生に来てもらい、週1回 子育て相談の時間を設ける。拠点スタッフが、保育園のイベントを手伝いに行く。相互協力体制づくりを話し合っている。</li> <li>・3階のABCジャパンと連携し、月1回以上 多文化理解の企画を実施する。スタッフをシェアしていきながら、拠点に常に外国ルーツの人が出入りしているようにする。</li> <li>・町会や民生委員と連携し、鶴見中央地区で計画されている地域サロンを共同実施する。</li> <li>・地域に住む高齢者から「一人分だけを作るのは難しくてご飯を作る回数が減る」という声もあり、料理の腕を生かす場として調理に協力してもらおう。外国人や若い世代も関わることで、日本の家庭料理を知りたいというニーズにも応えることができる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く若い世代も拠点と接点を持ち地域参加に繋がる様、夕方以降営業する日も設ける。</li> <li>・拠点のみで完結せず、周辺の公共施設等地域資源と情報・ニーズの共有をし、お互いの持つ空間・人材・アイデアを活かし合い、まち全体で活動を充実させていく。</li> <li>・収入：①カフェの収益 ②スペース貸し・コワーキング利用 ③サービスB補助金 ④会費・協賛等（※詳細収支計画を参照）スタートアップの不足分は、クラウドファンディングで資金調達の予定（2019年1月～3月で実施）</li> </ul>
--	--

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

<p>一次コンテスト以降の活動内容</p> <p>※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の町内会（整備拠点）の定例会や鶴見中央地区民生委員児童委員協議会での説明</li> <li>・「おなかま食堂」の実施 9/25：46名、10/25：28人、11/22：46人</li> <li>・アンケート調査 横浜商科大学学生チームの協力 →131サンプル（11/24現在）</li> <li>・商店街のイベント 10/27・11/24、つるみそーらんフェスティバル 11/3</li> <li>・ヒアリング：若者世代、区内の子育て支援、自助グループなど</li> <li>・月1回ニュースレター発行 提案内容、進捗報告、協力者募集</li> <li>・3つの町会の回覧板、掲示板にてプロジェクトの進捗報告</li> <li>・鶴見中央地域ケアプラザに相談 総合事業サービスB 実施に向けた相談</li> <li>・居場所に来ている子どもたちと理想のリビングプランづくり 11/6・11/20</li> <li>・プロジェクトメンバーミーティング ・視察</li> </ul>
<p>関係者の合意・調整状況</p> <p>（地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地権者：物件オーナー 説明・了承済み</li> <li>・近隣住民・隣接地：賃貸マンション管理会社へ説明済み オーナー返答あり</li> <li>・自治会町内会：鶴見下第三町会、鶴見中央中町会、鶴見中央下二町内会、鶴見中央地区自治連合会へプロジェクトの説明、進捗報告、意見募集をおこなった。整備後の運営についても全面的に協力する旨の応援をいただいている。</li> <li>・鶴見中央地区民生委員児童委員協議会：提案メンバーにも加入していただいている。</li> <li>・鶴見銀座商店街：アンケート調査への協力、イベント実施の相互協力</li> <li>・鶴見法人会：ミーティング場所の提供、区内企業への呼びかけ</li> <li>・入居ビル建築会社：設計について可能な限りの融通を利かしてくれる</li> <li>・鶴見中央地域ケアプラザ：総合事業サービスB実施に向けての協力</li> </ul>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>■ <b>つるみのみらいをつくるれんげいプロジェクト</b>：子育て支援・こども支援・多文化共生等に取り組んできた私たちは、それぞれの活動に閉じず、地域に暮らす多文化・多世代の人たちがお互いに関心を持ち合い貢献し合うことが、課題解決を加速する上でも必要と実感してきた。メンバーの持つ、若者・子育て当事者・外国人当事者・地元住民ならではの視点・活動経験とネットワークを活かし、地域全体を俯瞰し、持続可能な運営を元に地域の「出会い」と「参加」をデザインしていきたい。</p> <p>■ <b>地域への愛着</b>：鶴見中央で実施したアンケート調査からは、年齢が高く居住年数が長いほど地域への愛着が高く、「鶴見の人の温かさ」がその背景にあることがわかった。比べると若い世代の愛着・関心は低い。多くの人が拠点づくりに関わってくれるようになり、拠点で生まれる「人との関わり」の必要性を再認識し、多文化・多世代の人たちが「人の温かさ」を日々感じられる拠点づくりをすることができる。</p>
<p>目指す地域の将来像</p> <p>（施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください）</p>	<p>■ <b>地域参加の手ごたえを、多くの人を持つことができるまち</b>： 地域で暮らす多様な人たちが、場をシェアしながら貢献し合う。それぞれに居場所・役割があり、安心感・自己肯定感を持って、アイデアが生まれていく温かな地域のあり方を象徴する場となる。この拠点のあり方を、他地域にも広げていきたい。</p> <p>■ <b>多文化・多世代の地域ならではの魅力を感じられるまち</b>： 多様な人との接点を持つことで、視野の広がりや活力、地域の豊かさを感じることができる。また、若い世代や子どもたちも様々な文化・世代との出会いを通じて、まちづくりへの関心、働き方や将来の展望、世界への興味を広げることができる。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報含まれていません。

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 想定整備費用内訳書

### ※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
共通仮設工事	墨だし、発生材処分費など	一式	220,000	220,000	
下地工事	パーチクルボード、支持脚、ラッチ合板など	一式	186,000	186,000	ビル工事時のオーナー負担で178,200円分が削減
造作工事	フローリング、タイルカーペット、カウンター、キッチン収納棚、鍵付きロッカー、ソファなど	一式	1,380,000	1,380,000	オーナー負担 〃 35,000円分が削減
塗装工事	塗料、下地パテ、など 壁面塗装	一式	965,000	965,000	壁面塗装：放課後イノベーション小学生5名×2日間
建具工事	フラッシュ戸×2、枠、金物、施工費	一式	203,000	203,000	
水道工事	給排水管 トイレ、手洗い場、おむつ交換台、グリストラップなど	一式	50,000	50,000	オーナー負担 〃 1,200,000円分が削減
電気工事	電気配線	一式	50,000	50,000	オーナー負担〃 400,000円分が削減
厨房機器	冷凍冷蔵庫、コールトレープ、製氷機、2層シンク、1層シンク、ガスコンロ、搬入設置	各1台 一式	990,000	990,000	
現場管理、諸経費	現場管理	一式	550,000	550,000	オーナー負担〃 490,000円分が削減
設計料	設計費用	一式	500,000	500,000	オーナー負担〃 410,000円分が削減
什器製作	テーブル、椅子材料、製作ワークショップ	一式	400,000	400,000	放課後イノベーション小学生5名×5日間 地元住民5名×8日間
				549,400	消費税
合 計				6,043,400	

その他、左官工事・ガス空調工事をオーナー負担〃1,339,000円分が削減 オーナー負担計：¥4,052,200+TAX